

往復書簡

～ 18歳の春 ～
往

「 障害とは何か 」

障害の困難さをクリアするものは、手助け、気配りだったり、
環境を変えること
そして、本人の意識である。

つまり、これらが整えば、困難さはなくなっていく。

逆を言えば、
社会の中に、自由に生きる条件が整っていないことが
「障害」であるし、

「障害」のある本人が「障害」のあることを不満に思っている
ことが
「障害」なのだと思う。

「障害」というのは、社会の方に問題があるのだと考えられや
すい。
が、障害者自身に問題がある場合もあると思う。

なので、「障害」という概念にとらわれず、
一人の人間として、
どのように生きていくか、
周りの人とどのように接するかを考えることで、
結果が変わる。

(自分自身が自分の)
「障害」を感じるということがなくなると思う。

復

この世の中、特に日本は五体満足な20代～60代の男社会です。
子どもや女性、身体が少し不自由な人たち、高齢の方、LGBTの方等への
差別は他国と比べて歴然としています。

ろうあ運動のことを話してくださった山内公平様、ろうあ協会の方々の辛さや
苦しさ怒りは言い尽くせないほどあるのだと思います。

ビーンヤード島のように、日本に住む人々が、皆、手話を学び話ができたら
皆は「障害者」という枠の中にはいない。

〇〇君が書いてくれたように、環境を変える、人々の意識、本人の思い等が
整うと、健常者？が作っている「障害者」という枠はなくなる。

人が作っているんだ、「障害」って。

中学校で先生をしていた時、手話や「障害」のことを生徒と学びましたが、
「お前達は身体に障害はないかもしれないけれど、心の中は障害だらけだ」
というようなことをよく言っていました。

人が人を見るとき、何を大事だと考えるか　ということだと思います。

皆は今の整っていない社会の有りようゆえ「障害者」という枠に入れられています
が、決して「障害者」ではない。
劇の最後の〇〇君の「決めつけないでくれ」　のセリフの通りです。

できないこと　分からないことは助けてもらう
できることは自分でやる
自分が生きていきやすいよう環境を整える。
整うよう働きかける。

それは、全ての人間に必要なことです。

もうすぐ社会に出て行く〇〇君が、〇〇君だからできること、すべきこと
を見つけて全力で日々を過ごしてほしいと願っています。

時々いろんな深い話をしたこと　忘れません。
卒業までの日々、大事に。

テスト、全て合格できるよう頑張れ。